

さい石だより

2025年 第115号
静岡県砕石業協同組合
静岡市葵区末広町110
TEL<054>271-2618
FAX<054>271-2621
E-mail saisekigyoyou@cy.tn.ne.jp
<https://shizuoka-saiseki.jp>

御来賓

名誉顧問

参議院議員

静岡県議会議員

静岡県議会議員

静岡県交通基盤整備関係

河川砂防管理課長

砂防課長

技術調査課長

工事検査課長

道路保全課長

政令市関係

静岡市開発審議課長

関係団体

静岡県道路舗装協会会長

静岡県アスファルト舗装協会会長

静岡県建設産業団体連合会専務理事

静岡県中小企業団体中央経営支援部長

静岡県建設産業団体連合会専務理事

静岡県建設産業団体連合会専務理事

静岡県建設産業団体連合会専務理事

静岡県建設産業団体連合会専務理事

住川 守雄 様

石野 好彦 様

中村 嘉宏 様

松浦 真明 様

吉川 晴英 様

川口 貴弘 様

土屋 守廣 様

増田 慎一郎 様

杉山 一仁 様

後藤 祐介 様

相坂 摂治 様

木内 満 様

牧野 京夫 様

名誉顧問 牧野京夫参議院議員祝辞要旨



皆様には日頃
公共事業への
骨材提供等を
通じ、地域の
社会基盤を支
えていただい
ており、深く感謝申し上げます。

国では、令和八年度から五年間
を計画期間とする国土強靱化の
中期計画が始まる。
国の財政状況は厳しくとも、災
害に備えたインフラ整備は未来
永劫に渡り必要と考えている。
組合の皆様がますますの御発展
を祈念する。私も皆様と共に、
引き続き頑張っていきたい。

静岡県交通基盤部

羽田充明理事祝辞要旨

皆様におかれましては、日ごろから
本県の建設行政の推進に深い御理解と
御協力を賜り、この場をお借りして
厚く御礼申し上げます。

砕石業は、道路や河川・砂防、港湾
等の公共工事を骨材提供で支えて
おり、県土の発展と安全を確保する
ための基盤作りには、皆様方による
良質な骨材資源の安定的供給が
引き続き欠かせないものであります。

県内では、昨年、一昨年と台風接近
に伴う大雨の影響で多くの土砂災害
が発生しており、今後は、さらに
気候変動による水災害の頻発化・
激甚化が予測されています。

事業場内の防災対策はもとより、
事故防止のための安全対策などに、
引き続き御配慮いただき、地域との
共生を図りながら、県土の発展に、
今後も一層の御尽力をお願いする
次第であります。

結びに、静岡県砕石業協同組合
の益々の御発展と、皆様の御健勝を
祈念いたしまして、お祝いの言葉と
いたします。

(代読) 静岡県河川砂防管理課長

後藤 祐介 様



第二十五回通常総会

静岡県砕石業協同組合第二十五
回通常総会を令和七年五月二十三
日、静岡第一ホテル(静岡市駿河
区泉町)にて開催いたしました。
まず、理事長表彰があり、優良
事業所としてSKマテリアル(株)静
岡事業部と中部採石工業(株)浜北事
業部が、長期勤続従事者として夏
目起芳氏(遠州砕石(株))が、それ
ぞれ表彰されました。
受賞された皆様、誠におめでと
うございます。



立岩理事長

夏目起芳 様
(遠州砕石(株))

川合浩隆 様
(中部採石工業(株))

楠木昭久 様
(SKマテリアル(株))

立岩理事長あいさつ

(要旨)



皆様にはご多用の中、本総会に御出席いただき、深く感謝申し上げます。
さて、近年の砕石出荷量は減少が続いており、加えて採石資源の枯渇もあり、
かつては四十社以上あった私どもの組合員数は、現在十七社となっております。
県内には既に採石場の空白地帯があり、今後も拡大するおそれがあります。
先の能登半島地震では、近隣に採石場がなかったために、道路復旧等に遅れが
生じたとも言われております。万一の地震や豪雨等の災害発生の際、私どもは、
物資輸送等に必要な緊急の道路復旧工事等に、全力を挙げて取り組む所存ですが、
そのためには平常時から安定経営を維持できる経営環境が必要となります。
そこで今年度は、友好団体である静岡県道路舗装協会様や静岡県アスファルト
合材協会様と手を携え、三団体で一致協力して行政当局に向け公共事業等の需要
を喚起する行動を起こしていきたいと思いますと考えております。
結びに、皆様のますますの御発展と御健勝、御多幸を祈念して私の「あいさつと
いたします。



第二十五回通常総会の概要報告

総会には組合員十七名中、十三名が出席、委任状提出四名で、総会には有効に成立いたしました。

（来賓を含め出席総計四十三名、当日は令和六年度事業・収支決算の報告や令和七年度事業計画・収支予算等が審議されました。

令和六年度の実績では県行政各課との五回の意見交換会や道路舗装業界の若手職員向けの採石場現場見学会等が報告されました。

令和七（2025）年度は例年同様な事業とともに、当年度が昭和四十（1965）年の団体発足から六十年の節目の年にあたることから記念の取組を行うことが提案され、すべての議案が原案通り承認されました。

なお、理事など現役員の任期は令和八年五月までで、次回の総会で役員選挙を行うこととなりますので、予め御承知願います。



また総会に併せて令和七年五月から新たな任期（二年間）が始まる技術運営委員に対して理事長から委嘱状が交付されました。

令和7（2025）年度7月までの 静岡県砕石業協同組合が関係する主な動き

技術運営委員会委員の委嘱
（令和七年五月～二年間）

技術運営委員会は、砕石業に関する様々な事項の協議や行政当局等との意見交換に取り組みます。理事会が、組合の意思決定機関であるのに対し、技術運営委員会は、協議、検討に取り組み実質的な役割が期待され、委員会が出した結論が、理事会に諮られることとなります。

今回、委員に委嘱された二十一名の皆様には、是非、積極的活動をよろしくお願いいたします。

委員長	川村 靖	（株）カワムラ
副委員長	川合 浩隆	中部採石工業（株）
副委員長	後藤 真典	（株）後藤
副委員長	溝添 一郎	二葉建設（株）
委員	小松 孝志	二葉建設（株）
委員	中里 哲也	木村土木（株）
委員	鈴木 伸司	土屋建設（株）
委員	山本 安治	土屋建設（株）
委員	鈴木 俊雄	立岩石材興業（株）
委員	野毛 忠明	静甲工業（株）
委員	稲葉 一男	静甲工業（株）
委員	田村 卓斗	（株）後藤
委員	山本 雅也	（株）山本建材
委員	菊地 昭吾	（株）東海造成
委員	渡辺 貴彦	（株）静岡砕石センター
委員	久保山勝正	（株）静岡砕石センター
委員	小柳 茂昭	SKマテリアル（株）
委員	市川 順聖	中部採石工業（株）
委員	鈴木 清孝	浜北砕石（株）
委員	鈴木 雄司	三ヶ日採石（株）
委員	中村 浩之	遠州砕石（株）

「静岡県砂利及び岩石採取計画認可事務取扱要綱」の一部改正
（令和七年六月一日施行）

採石場等での災害の未然防止や監督体制強化を図るため、静岡県では、岩石採取計画等の認可事務取扱要綱を改正いたしました。

岩石の採取業者には、所管する土木事務所に対して、毎年四月に前年度実績等の業務状況報告書を提出することや、採石場内で事故が発生した際に、直ちに災害発生報告書を提出することが、義務付けられました。

なお、この要綱改正にあたり、当組合と県当局との意見交換を通じて、報告書の添付書類簡便化等に反映されました。



改正の詳細は、静岡県のホームページで。
上記 QRコード または
<https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/kasensabo/1049360/1065989.html>

当組合と静岡県道路舗装協会及び静岡県アスファルト合材協会の三団体連名による要望書の提出
（令和七年七月十五日）

当組合と静岡県道路舗装協会及び静岡県アスファルト合材協会は、長年に渡り、適切な道路舗装の施工に努めてまいりました。また、大規模災害発生時の迅速な道路啓開等は、三団体にとっての大きな社会的使命となっています。

しかし、公共事業のボリューム縮小で工事量や出荷量が減少し、近年は関係事業所の空白地帯も生まれました。

このままでは、社会基盤を支える道路の維持や災害発生時の緊急対応に支障をきたすおそれが高まっています。

災害時に備えるには、平時時から関係各社が安定経営を維持できるよう、公共事業予算の確保が不可欠です。

今回、三団体は危機感を共有し、初めて三団体連名で、静岡県に対し「災害に強い社会基盤構築に向けた予算措置等について」の要望書を提出いたしました。



左側：県当局

右側：三団体代表

要望書の内容など詳細は、当組合のホームページのNEWS欄を御覧ください。
<https://shizuoka-saiseiki.jp>
以下のQRコードからも。



事務局あとかき

当組合の前身団体は、六十年前の1965年に設立されました。前年に東京オリンピックがあり、「3C」（クルマ、クレーン、カラーテレビ）が流行語という高度経済成長の真っ只中の時代で、まさに昔目の感があります。現代は、モノはあふれてもなかなか明るい話題がない日々です。何もかも難しい時代ですが皆様の声を少しでも汲み取っていきたいと思います。